

子ども農業体験塾

・北海道／旭川市
・開催時期：5月～11月

「食育と農業理解！」 「ふるさとづくり！」 「プチ冒険！」

体験学習等のイベント内容

- ・旭川市内の小学生を対象に、5月から11月まで、月に1回程度、水稻・園芸・酪農等、各種の農業体験を実施し、「旭川の農業」や「食」、「命の大切さ」について考える学習機会を提供しています。
- ・地域の教育大学の学生がボランティアスタッフとして参加し、小学生・大学生・農業者の異世代間交流の場にもなっています。

子ども農業体験塾年間プログラム

実施時期	実施内容
5月上旬	入塾式
5月下旬	田植え体験
8月	ハーブ収穫体験
9月上旬	酪農体験
9月下旬	稲刈り体験
10月	果樹収穫体験
11月	収穫祭・修了式



取組主体の紹介

市民の農業・農村・食糧への関心と理解を深めることを目的に、旭川市が実施している「市民農業ふれあい事業」の取組の一つです。有志の農業者と旭川市が運営委員になり、H12年に開塾。H18年には地域の教育大学が運営委員に加わっています。開塾以来プログラムを改良しながら取組を継続しています。

イベントに参加するには

旭川市内の小学4～6年生が対象。
3～4月に市の広報誌やHPに掲載し募集しています。

・取組主体等：子ども農業体験塾運営委員会

・問合せ先：0166-25-7417（旭川市役所 農政部農政課）



里山の豊かな自然から人と自然が共生するまちづくりを学ぶ

体験学習等のイベント内容

・里山として人と自然とが共生するためには、自然にすべてを任せるのではなく、人の手を加え、利用しやすい環境を整える必要があります。

・5月から11月までの毎月第2日曜日を「ハサンベツ里山の日」とし、一般参加を可能とした里山の再生に取り組んでいます。

・春の里山開きに始まり、苗畑づくり、野草や水生植物の移植、田畑の草取り、農作物の収穫、ほ場の片付け、冬囲いなどの他、ホタル鑑賞会や冬期には雪下ろしや炭焼きなどの体験活動も実施しています。

・ハサンベツの里山があることで、子どもたちは自然の中で、実際に五感を使った色々な体験を通して学びを深めています。



取組主体の紹介

栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会は平成13年度から約24haの離農跡地とその周辺約100haの林地で「人と自然と農業が共生する里山」を目指し、ホタル・トンボ水路の整備、子どもたちが遊べる小川や体験田んぼの造成、ハサンベツ川的环境再生、湿性植物繁殖地の造成と移植、雑木林の復元などの活動を展開してきました。

その活動は20周年を迎え、拠点施設として新たに生まれ変わった「里山のめぐみ交流館【納屋】」を中心にこれからも里山の再生に取り組んでいきます。

イベントに参加するには

事務局にお問い合わせください。

- ・取組主体等：栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会
- ・問合せ先：0123-72-3000（実行委員長 高橋 慎）
0123-72-1117
（栗山町教育委員会社会教育課内）



サロベツの湿原と農業を満喫する1日

体験学習等のイベント内容

・北海道の北部に位置するサロベツ湿原では、地域の多様な主体が協力して湿原と農業の共生を目指す「自然再生事業」が行われています。

・この取組をより多くの人に知っていただくため、毎年秋に「サロベツ・エコモーDay」を開催し、パネル展やクイズラリー、牧草ロール展示、はしご車による湿原展望、地元小学生による自然散策路ガイドなど、当日は様々なイベントを実施しています。

・8回目の開催となった2019年は、地域の内外から470名が参加し、湿原の保全と酪農業の振興を両立させる取組への理解が深められています。



取組主体の紹介

取組主体である「サロベツ・エコモーDay実行委員会」は、サロベツの湿原と農地を保全するため個人・団体による有志で組織された「エコモー☆サポーター」が中心となっています。

エコモーDayの開催には、豊富町、豊富町観光協会、JA北宗谷、豊富牛乳公社、豊富高校など、地域の多くの方々の協力をいただいています。

イベントに参加するには

開催日時は、ホームページ等で告知します。

・取組主体：サロベツ・エコモーDay実行委員会

・問合せ先（TEL等）：サロベツ湿原センター

TEL:0162-82-3232

・参考URL：<http://sarobetsu.or.jp/ecom/>



親子一緒に農業農村を体験して、多面的機能を学ぶ

体験学習等のイベント内容

・地元の親子を対象に土地改良区、農協、博物館、役場、農業者など多くの機関と個人が協力して農業体験、食の知識の習得、生物多様性の学習や農業施設見学を行い、農業農村の役割を学んでいます。

・「田んぼの学校」は田植え、稲刈り、餅つきまで一連の稲作を体験し、さらに田んぼや用水路等の農業水利施設で博物館の指導の下で生き物調査を行っています。また、地元農産物を使いうどんやナン、バター等を作り、その自ら作った料理を食べる体験も行っています。

・この活動には、地元を中心に幼稚園から小学生まで60人を超える親子が参加しています（コロナ禍前）。かつて子供として参加していたが、成長して主催者の一人として活動を支える立場で参加する者も出ており、地域に根ざした息の長い活動になっています。



取組主体の紹介

取組主体の網走川土地改良区は、美幌町・大空町の面積2,422haの農地に関わる頭首工4か所、幹線4条45.6km、支線69条47.0kmを維持管理しています。また、他にも農業水利施設を含む農業農村の多面的機能を広く知ってもらうために「田んぼの学校」を関係機関等と協力して行っています。

イベントに参加するには

「田んぼの学校」の開催は、地元の広報誌や新聞に掲載しお知らせと募集をしています。

- ・取組主体等：網走川土地改良区
- ・問合せ先（TEL等）：0152-73-2037



見る、遊ぶ、体験する 北海道の新しい教育旅行

体験学習等のイベント内容

・北海道日高の地で、現代の都会生活ではなかなか体験できない、美しく厳しい自然、生産現場や農林漁家での人とのふれあいなど、教室では学べない人間関係のあり方や社会生活を体験することで、生産現場への理解と食の大切さを学んでいます。

・体験内容は、1グループ3～4名の生徒が、農林漁家に滞在しながら野菜の植え、収穫、牛馬の世話などの農作業や昆布干しなどを体験し、雄大な自然の中で地域の人たちとふれあうプログラムです。

・平成23年度の開始以来から令和元年度まで、高校生延べ3,156人を受入し、都市部の生徒と地域住民に交流が生まれ、一過性ではなく継続的なつながりや、参加した生徒が道内で就農した事例もあります。



取組主体の紹介

取組主体である「日高王国推進協議会」を構成する浦河町・様似町・えりも町は馬産地として有名ですが、野菜の生産や乳用牛や肉用牛などの畜産、林業、漁業も盛んです。

冬期でも積雪量が少なく、夏が涼しいのでハウス栽培に適した地域で、特産品であるイチゴに加え、花きやアスパラガス、トマトなどの栽培が行われています。

また加工品の製造など、農業経営の多角化に取り組んでいます。

イベントに参加するには

高校生以上の修学旅行等を対象に参加(有料)を募集しています。

- ・取組主体等：日高王国推進協議会（〒057-8511 北海道 浦河郡浦河町築地1丁目3番1号 浦河町役場内）
- ・問合せ先（TEL&FAX）：0146-22-2511
- ・参考URL：<http://www.hidaka-king.com>

